

清瀬市郷土博物館協議会 平成 30 年度第 1 回議事録

日時 平成 31 年 2 月 22 日（金）午後 2 時～
場所 郷土博物館 講座室
出席者 委員 岡田、築瀬、山我、富田、小俣（敬称略）
事務局 坂田教育長、石川教育部長、星郷土博物館長、金子事業係長
議事録 田嶋
欠席者 委員 岩本、森本（敬称略）
会議の公開・非公開 原則公開
傍聴者 なし
配布資料 資料 - 1 平成 30 年度事業報告について
資料 - 2 平成 31 年度事業予定について
資料 - 3 平成 31 年度事業予定（案）

【議事要旨】

開会

1. 教育長挨拶
2. 議題
 - (1) 平成 30 年度事業報告について
 - (2) 平成 31 年度事業予定について
 - (3) 平成 31 年度博物館事業における宣伝・広報について
3. その他

<協議>

事務局より平成 30 年度事業報告及び平成 31 年度事業予定について説明。

(会長) 様々な事業を行っていることには努力を感じます。その事業についての成功例と失敗例を聞かせてください。

(館長) 博物館単独ホームページにはこれまでおよそ 23 万のアクセスがありました。とても情報量が豊富のため、研究者の方からのアクセスが多いのではないかと。幅広く利用されており、現時点では評価できると考えます。今後も新しい情報を追加し、継続して行きます。
次に森田家の活用方法ですが、いろいろと検討していますが、立地的理由か、なかなか入館者数の増加は見込めません。今後もさらに検討が必要と考えます。邦楽コンサートでは動員力があるが他の事業では参加数が少ないため人が呼べるような企画を今後も考えていきたい。

歴史講座については、「土曜日は博物館」という合言葉とともに今年度から数を増やして実施しており毎回好評です。

夏に行なった企画展関連事業の灯籠づくりは、小学生を対象にした事業で子供たちが作った灯籠を火の花祭りの当日、富士塚に並べました。火の花まつりを新住民にも知ってもらう機会となりました。低年齢の子供たちが参加できる企画が必要と考えます。

新規事業については、郷土カルタを使った企画なども徐々に進めていきたい。

- (委員) 清瀬の富士講の図録が素晴らしい。文化財散歩などの時にも持っていけば更なる活用方法が見つかるだろう。
- (事務局) 市内の子供たちが博物館をどのくらい周知し、来館があるのか
市内の小学3年生が授業の一環として毎年見学に来ています。民具に関しては、体験しながら興味深く見学している子もいます。子供たちを見ていると、あくびしている子がいたり、熱心に見ている子がいたりと様々です。
- (委員) 渡辺うめ展のポスターが、アミューには貼っていなかったようだが。
- (事務局) 博物館では特別展の印刷物を約280か所リストにもとづいて各施設に発送しています。ただ各施設のスペースの問題やポスターの大きさなどにより必ず掲示してもらえとは限りません。
- (委員) 8月に気象衛星センターの一般公開日があるのですが、その日にからめて、ひまわりフェスティバルや大林組施設見学、博物館縁日などやっていけばもっと動きが良くなるのでは。
- (事務局) 貴重な意見として参考とさせていただきます。
- (委員) 集客について、PR方法を工夫した方が良い。都庁の広報を入れられる場所などにも企画展のチラシなどを置いたらよいと思います。以前から提案しているが、天然記念物の指定を考えるべきだ。清瀬には天然記念物になるような素晴らしい樹木が沢山ある。台風などの被害もあるので市の助けが必要。古墳や化石ばかりでなく生きた文化財も指定していく方が良い。他の市町村は清瀬よりもっと指定が進んでいる。都で指定されるような樹木もあると思うが、まずは市が前向きに考えていくべきだと感じる。
- (教育長) 今後どのようなものを指定していくか、文化財保護審議会委員の意見も聞きながら行っていきたい。
(ここで、郷土博物館友の会の元副会長より教育基金に寄付があったことを伝える。)
- (委員) 少ない職員と少ない学芸員でとても頑張っていると感じます。その中でも清瀬の富士講展・渡辺うめ展などとても力を入れてやっており素晴らしく思います。意見としては清瀬郷土カルタをもっとPRしていただきたい。他市から来た方にとってもわかりやすく清瀬の魅力や文化等を知るにはとても勉強になるのでぜひ活用して頂きたい。またそのことで郷土カルタの売上が伸びる結果にもなる。
- (事務局) 次年度以降も郷土カルタについては宣伝・広報などを強化していきます。
- (会長) 歴史講座ですが、今年度非常にたくさん実施していただいていますし、テーマ展示や博物館単独のホームページも含めて清瀬の事を知ることが多くなってきていると感じる。学芸員もそれぞれの専門知識

を生かして、ぜひ今後とも続けてもらいたい。

私共の会では「清戸道」というものを発表しました。これを見た人がこの道を歩いてみたいということで、博物館の中野氏を通じて練馬区の学芸員に依頼して、友の会の方などもお誘いし、講座を聞いた後に、実際にそこを歩いてみることを提案しました。そのように広がっていったので、講座を続けて行って欲しい。博物館の本来の趣旨が何なのかを考えつつ地元のことについて詳しい方にも参加してもらい案内をしてもらうなど、輪を広めていきたい。東村山市では子供が案内しているところもあると聞きます。

(委員) 来館者を増やすために夜間の開館についてはどうか。

(館長) 実際に企画展の際、金曜日のみ午後7時まで開館したところ、来館者は小金井市の方と清瀬市の方2名だけでした。一般利用者の方が午後8時まで行った際も、午後5時以降の来館者は全く来なかったという結果でした。やはり都内との違いもあり、地域の特性と博物館は5時までというイメージからか、夜の来館者が定着するのは難しく、費用対効果などから効率は悪いです。

(委員) 特別展の会期が20日間と長いので、良い宣伝をしていけたらもっと来館者は増えると思います。

(会長) それでは、議題(3)の広報・宣伝について今後の課題等を館長の方からお話し願います。

(館長) 先ほどもお話ししましたが、森田家の活用はなかなか博物館の方でも良い案が見つからない。成功例としては日本一の三味線の方に演奏していただいた時には、80名以上の参加者があったが、ゆでまんじゅう作り講習会には参加が3人と少なかった。

(会長) これに関して何かご意見がありますでしょうか。

(委員) 庭に畑などを作って野菜を収穫し、調理して食べるなどはどうか。

(館長) それも以前、旧森田家の庭に小さな畑を作ったことがあったが、森田家の管理上、無人になることが多く、鳥などにほとんど食べられたり小動物などに畑を荒らされたりと、被害にあったので収穫できるほどには及びませんでした。

(委員) 旧森田家にある柿はどうか？

(館長) ホームページにあげて市民の方に提供しようと考え、食したところ大変な渋柿だったため断念しました。博物館に親近感をもってもらうため、館の敷地内にあるザロンバイ（梅の木）の花の咲き具合を、写真に撮り定期的にアップしています。そのうちに梅の実がとれますので、ホームページを見た方にはお分けするなどの方法を考えています。

(委員) 畑の体験学習はどうか、バーベキュー場、横の駐車場などで行ってみてはどうか。

(館長) 旧森田家は主屋の建物が文化財に指定されているため、むやみに火などを起こしたりするのは消防法などからも難しい。かまども茅葺屋根を薪でいぶすために設置されています。

(事務局) 建物自体は指定されているが、庭で行う場合は、大丈夫なのか検証

- してみます。
- (委員) 社協で8月に行われている親子ボランティア活動では、活動のあとにじゃがいもを食べるなどの体験があり、定員を超えての申し込みがあると聞いている。食べるという事がキーワードになり、人が集まるのではないかと考えるが。
- (事務局) 食に関しては、当館が歴史・民俗博物館という立ち位置もあり、郷土の文化にちなんだものということでこれまで取り組んできました。その点に関しては、これからさらに広げて行くのが良いのかどうかを探っていきたいと思います。
- (委員) 金山調節池というのは関東の水と緑のサービス拠点100選に認定されている。北多摩で初めての認定地。あとは野鳥の多さが魅力である。
- (事務局) そのことについては野鳥観察会の時などにアピールしたいと思います。これからも協議委員のお力をお借りしながら、広報活動にご協力いただきたくお願い致します。
(ここで郷土博物館友の会が主催する「清瀬フォトコンテスト」についての紹介・説明をした。)
- (委員) 郷土カルタ大会に参加する学年は決まっていますか。保育園などにも配ったのか。カルタ大会の宣伝をもっとしたらいいと思います。
- (事務局) 内容的に保育園児にはまだ少し難しいのではないかと思います。少なくとも小学校3年生以上でないとう理解しにくいのではないかと考えています。カルタ大会を盛り上げるために学校などにも働きかけましたが、なかなか協力してもらうことは難しい状況のようです。現在どのように進めていくか鋭意検討中ではありますが、いずれにしても小・中学生対象に実施していきたいと考えています。
- (会長) それでは既定の時間も迫ってまいりましたので、その他も含め何かご意見がございますでしょうか。
無いようですので以上を持ちまして協議会を終了いたします。

閉会